黒き翼

廚二病患者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
　この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
黒き翼

【Ｎコード】
Ｎ９６６０Ｓ

【作者名】
廚二病患者

【あらすじ】
　叶うはずの無い夢を見る高校2年生石川隆太とその幼馴染の加藤涼子がある日天使と悪魔の戦争に巻き込まれてしまう！！
涼子が悪魔に連れ去られ途方に暮れるが悪魔を倒せば涼子を助けられると天使に教えられ立ち直る隆太
隆太は無事に涼子を救いだせるのか
初心者作家廚二病患者が送るバトルファンタジー小説スタート！！

プロローグ（前書き）

初心者の書いたつまらない変な小説です
それでも見ていただけると嬉しいです

プロローグ

俺は石川隆太（いしかわりゅうた）、叶うはずの無い夢を今だ見ている高校2年生だ。
突然だが翼は欲しいと思ったことは無いか？俺はある
自由に空を翔け、何処へでも自由に何処までも飛んでいける、そんな翼が…

ピピピピピピピピ…
目覚まし時計の音が鳴り響く部屋、俺は眠い中目覚ましに手を伸ばしそれを止めるためと手を伸ばす
「りゅうちゃ〜ん、早く起きて〜」
止めた瞬間に部屋に女の子が入ってきた
俺の幼馴染加藤涼子（かとうりょうこ）だ。涼子は黒髪で容姿端麗で成績も優秀だがちょっと抜けている
「んだよぉ〜、もう起きてるぞ、いつも朝からうるさいんだよお前は」
「でもこうでもしないとりゅうちゃん起きないんだも〜ん」
こいつはいつもこうだ、こうやって俺の事を無駄に世話をするいわば物好きだ
「ハイハイ、わかりました、明日からはちゃんと起きるからお前はもう来なくても良いぞ」
「えっ…りゅうちゃん、わたしりゅうちゃんを起こしに行けなかったら明日から何を楽しみに朝起きれば良いの？ねぇ、りゅうちゃん…」
泣きそうな目で俺を見る
ゲッ、やべぇここで宥めておかないと面倒な事になる…
「と、思ったが俺は一人じゃ駄目だ、これから毎日忙しい日を除いてお前が起こしてくれないとな」

「えっ！！本当に！毎日起こしに来て朝ご飯作って一緒に登校しても良いの！！」

涼子はまるで新しいおもちゃを買って貰った子供のようにはしゃいでる

「あぁ、これからも頼むぜ」

「うん！！」

「それより飯だ飯、早く食わねぇと遅刻しちまうぜ」

「そうだね」

いつもと変らない日々を明日も明後日もその先も続けられると俺は思っていたが、この日俺と涼子の運命が変っちまう出来事が起こるなんて、俺たちはまだ知らなかった

プロローグ（後書き）

初めまして、厨二病患者です！
暇潰し程度に始めてみた小説ですが、頑張って書いていきたいと思います
まずはプロローグを書いてみましたが、プロローグくらいは平和に過ごしてもらいました
だってプロローグから残酷だったら大変でしょ？
と、言う事でこれからも黒き翼を読んでいただけると嬉しいです！！

第一話～陰謀～（前書き）

高校の入学式の日、隆太と涼子の運命を変える瞬間は刻一刻と近づいていた

だが何も知らず平和に過ごしていた

初心者小説家の初作品ついに本格始動か！？

第一話～陰謀～

―１―

「行ってきま～す」
俺は涼子と家を出る、俺の家は7階建てのマンションの5階にある4LDKの部屋である
両親は2人とも俺が高校入学前に事故で死んだ
一度親戚と一緒に暮らそうって話になったのだが俺はこのマンションの部屋に思い入れがあり今は1人で暮らしている
幸い、両親が残してくれた遺産で暮らせるし祖父母が少し援助してくれているのでそこまで生活に困ってはいない
「そう言えば今日は入学式だね、可愛い1年生がいっぱい入ってくるよ～」
「1年生？あんなのただのうるせぇガキじゃないか、可愛くもなんとも無いね」
「そんな事無いよ～、緊張してるけど頑張ろうとしてる1年生、とっても可愛いじゃない」
「俺はそうは思わないね」
「むぅ～、りゅうちゃんのわからずや」
「ハイハイ」
そう今日は俺と涼子の通う学校・想天高校の入学式なのである
想天高校は公立の方でも上のレベルの学校で、在学875人の学校だ
学校のモットーは文武両道だ
毎回学期末に行われる学力・運動能力試験で全校のランキング（もちろんの事男女別）で総合ランキングの300位以内に入らなければ参加してる部活は参加禁止になるし、それがあまりにも酷ければ退部、留年、留年2回続けば退学になる

まぁ、俺も涼子も成績は上の方で部活も入ってないので全く問題ない
「今日俺屋上でサボるは、先生に言い訳頼んだ」
「え~っ、駄目だよ、ちゃんと参加しようよ~」
「頼む、後で何でも言う事聞くからさ、な？」
「う~んとね、じゃぁ今度の日曜日デートしよう」
「えっ！ちょっとまて」
「何でも言う事聞いてくれるって行ったよねぇ~」
「ハイ、言いました」
涼子と約束を破るとめんどくさい事になるので言う事を聞くことにした
「とりあえず具合が悪いって事で保健室行ったって事にしとくね！」
「あぁ、頼んだ」
「約束忘れないでね」
「あぁ、わかった」
そうこうしている内に学校に着いてしまった
俺はこれから一旦教室に行きその後屋上に直行だ
「んじゃ、帰りのHR（ホームルーム）には戻って来るからな」
「うん、じゃぁまた後で」
「おう」
これがあいつと交わした、最後の日常会話であった

―2―

隆太と涼子が一緒に歩いているのを影から見ている2人組みが居た
「へっへっへ、見ましたかあの女、闇の力の適合性がかなり高いですぜ、あいつをこちらに引き込んで魔王様の嫁にしましょうぜ」
邪悪な気配を漂わせる男はそう言った
「あぁそうだな、あの女は闇の力を受け入れる器だ、魔王様もお気に召すだろう、だが・・・」

冷酷そうな女がそう言って途中で言葉を止めた
「如何した？何か問題でもあるのか？サクバス」
サクバスと呼ばれたその女は
「よく見ろアザゼル、あの女光の加護を持っているから気がかりになっただけだ」
サクバスはアザゼルに向ってそう言った
「まぁそんな加護は魔王様の力で消すことは出来るでしょうよ、とりあえず捕らえて魔王様の下へ連れて行きましょう」
アザゼルはそう言った
「そうだな、では行くぞ」
「了解」
そういって
2人は呼び出した闇に姿を消した

第一話～陰謀～（後書き）

どうも、厨二病患者です

さてさて、今回影から見ていた悪魔の2人組み、サクバスとアザゼルですが、2人の名前は色んな国の神話から名前を取って着けました

これから出る予定の天使や神々と悪魔も色んな国の神話から取って着ける予定です

第2話～契約～（前書き）

悪魔に殺されたが天使の力で蘇った隆太
いったいどんな風に戦うのか
ちょっと大人な表現をした第2話を楽しんでください

第2話～契約～

―1―

「ふわぁ～、良い天気だなぁ…」
隆太は屋上の貯水タンクの上で寝転がり空を見上げていた
「こう天気が良いと、なんだか眠くなってくるなぁ」
そう思いうとうとしていたらいきなり雲行きが怪しくなり、やがてあんなにも晴れ渡っていた空は淀んだ曇り空になった
「あれ？今日はずっと晴れじゃなかったっけ？天気予報は当てにならねぇなぁ」
そう思い起き上がり場所を変えようとした時、空が光り雷が落ちてきた
落ちた先は運が悪く隆太の居る屋上に落ちたのである
ドカーン！！
「うわぁっ！！」
隆太はびっくりして情けない声をあげてしまった
煙が立ち上がるその中に、見知らぬ男女2人組みが居た
「おいアザゼル、ここに何か異常なほどの光の力を感じるぞ」
「わかってる、サクバス、俺も感じるぜ」
(光？こいつら何言ってるんだ？)
その会話を貯水タンクの影に隠れて聞いていた
「そこか！」
「っ…！！」
気づかれた！サクバスと呼ばれていた女に何か手裏剣のような飛び道具を投げられ、貯水タンクは真っ二つに切れた
「おっ、お前ら何者だ！！」
「私たちか？ふん！これから死ぬ者に名乗る名など無い！！」

（死ぬだと？今なんて言ったこいつら、俺が死ぬ？まさかな）
そんな事を考えてる間にもう一人の男、アザゼルとか言う男が長い槍を何処からともなく取り出し構えている
「お前には怨みは無いが、生きていられると厄介だ、死んでもらうぞ」
ザシュッ！！心臓を貫かれ鮮血が飛び散る
（あぁ、俺は死ぬんだ・・・）
アザゼルはもう動かない隆太の体をぼろぼろになるまで突き続けた
「もう寄せ、お前の悪い癖だぞ」
「ヘイヘイ、わかりましたよ」
アザゼルは名残惜しそうにその行為を止めサクバスと向き合う
「では、そろそろ花嫁様をお連れするぞ」
「了解」
そう言って2人はその場を跡にした

ー2ー

サクバス達が去った後、隆太の元に一人の女の子が空から舞い降りてきた
その女の子は髪は金髪でツインテール、身体は小さく中学生くらいの大きさだ
「遅かったか、如何しましょう？この人に今死なれたら悪魔と戦えないわ・・・」
そう困った感じに言っておどおどしていた
「如何しましょう如何しましょう、あっ！そうだったわ、神様から貰った聖水、あれは確か一度だけ死者の魂をこの世に留まらせる効

果があったわ」
そう言い出し、隆太の口に聖水流し込んだ
「うっ！ゲホゲホッ！！」
隆太は目を覚ました
「わ〜い、やりました〜、救世主様を蘇らせました〜！！」
「誰だ？お前？俺が救世主？てかなんで俺は生きてるんだ？確かアザゼルとか言う奴に槍で心臓貫かれて死んだ筈じゃぁ・・・」
隆太は周りを見渡した、確かに貯水タンクは壊れていたし血が飛び散っていた
夢ではない事を自覚した
「私は天界から地上の貴方様の元に使わされた天使、ウリエルと申します、突然ですが貴方には悪魔退治に協力してもらいます」
「悪魔退治？何でそんな事しなきゃいけない、しかもお前は天使だと？冗談は対外にしろ！！俺は殺された筈だし何で今生きているんだ！！」
俺は今の気持ちを全部吐き出した、第一なんだよ、悪魔？天使？神話の話じゃ無いのか？
「そうね、いきなり言っても信じてもらえないわよね、良いわ、証拠を見せましょう」
そう言うといきなりウリエルは上の服を脱ぎ始めた
「っ・・・！！」
俺は驚いた、体はちっちゃいけどスタイルがいい事に驚いた
いや、実際はそんな事よりも背中に生えているものに驚いたのだ
「どう？信じてくれる？」
そう、彼女の背中には翼が生えていたのである
「お願い！！一緒に悪魔退治を手伝って！！」
「いや、何で俺なんだよ、他の奴でも良いじゃないか！！」
実際そうだ、俺じゃなくても別に他の奴でも良いじゃないか？
「あなたじゃ無いと駄目なの、貴方が協力してくれないと世界が壊れちゃうわ、大切な人も傷ついちゃうし命を落とすかもしれないの

よ」
「何！？」
俺は驚いた、皆死ぬだと？
「もし協力してくれたらそれ相応のお礼をするわ」
「わかった」
俺は決心した、お礼が欲しいわけではなく皆が守れるのなら協力しても良いと思った
「よし、じゃぁ今から契約の儀をするわ、ちょっと近づきなさい」
俺は従った
「よし、じゃぁ行くわよ」
俺は息を呑んだ
「我、主に仕える忠実な僕、我が主の名に置いてここにこの者と契約を結ぶ」
そう言うとウリエルは顔を近づけてきた
「っ・・・！！」
何とキスをされたのである、しかも大人なディープキス
ピカーっ！！
俺とウリエルの周りに光が集まってきた
その光は肩甲骨の辺りに集まり翼の形を形成した
そしてウリエルは光の玉になり俺の胸に入っていった
その瞬間身体が熱くなり髪の毛の色が黒から銀に変った
「これで契約完了よ、いつでも融合（ユニゾン）出来るわ」
「ちょっ、待ってくれよ、融合（ユニゾン）だと？俺とお前の２人で悪魔を倒すんじゃないのか？」
「確かにそういう方法もあるけどそれだと個々の力が弱く、悪魔に返り討ちにされるわ、だから私たち天使は適合者とコンビを組み融合（ユニゾン）して戦うの」
「でも俺戦い方知らないぞ、大丈夫なのか？」
「大丈夫よ、私が教えてあげるわ、でも今はちょっと無理、時間がないわ」

時間がないだと？どういう事なのか考えて体育館の方を見ると体育館が燃えていた

「おい！あれは悪魔の仕業か！？」

俺は焦りながらそう聞いた

「えぇ、そうよ、あれは悪魔の仕業よ、今から貴方にはあれの原因の悪魔を倒してもらうわ」

「わかった！急ぐぞ！あそこには俺の幼馴染が居るんだ！」

俺はそう身体の中のウリエルに言い、翼で羽ばたいた

第2話～契約～（後書き）

ついに天使と契約をした隆太
いったいどんな感じに戦うのでしょうかね
今考えているのは魔法を使って戦うって言う感じですかね
3話を楽しみにしてて下さい

PDF小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能(たんのう)してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9660s/

黒き翼

2011年10月9日01時23分発行